

| 教育目標 | | 心豊かにたくましく生きる子供の育成 | | | | | | |
|----------------|-----------------------|---|--|--|--|--|---|---|
| 重点目標 | | 1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育を実践する。 | | 2 友達と共に伸びようとする仲間づくりを進める。 | | | | |
| 重点項目 | | 3 健やかな心と体づくりを進める。 | | 4 家庭・地域社会との連携を図り、地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。 | | | | |
| 項目 | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 | |
| 確かな学力の向上 | 自ら学び自ら考える力の育成 | ・自分で考え決定し、主体的に遊び込む力を育成する。 | ・全職員で子供の姿について共通理解を図るとともに、子供が自ら考え遊び込むに必要で環境構成の工夫を行い、保育を実践する。 ・「自分で考え決定し主体的に遊び込む」に繋がるための環境の構成について園内研修会を年2回以上、職員全体で学び合い、教職員の保育実践力を向上させる。 | ・週1回前週の子供の姿を共有し指導計画を振り返る。 ・精通1回園庭観察計画及び戸外の環境構成について協議し、子供の姿や環境について共通理解を図る。 ・戸外遊びの環境について環境構成図を作成し、子供が遊び込むために必要な環境を整え、実際の子供の姿から環境を再構成する。 ・子供の考えや決意を共有する。 ・子供の考えや決意を共有するエピソードをもち、学期に1回以上、カンファレンスを行う。 ・保護者アンケートの「子供は、幼稚園で自ら考え遊び込んでいる」という評価項目の肯定的な評価を80%以上に引き上げる。 | B | ・精通1回の短期観察計画及び戸外遊びの環境構成の話し合い、また週1回の子供の姿の話し合いの際、その時の子供の様子や育ちについて共通理解を図ることになった。その後の環境構成について必要に応じて、子供の意見を交換し、環境構成を再構成することができた。引き続き、子供の姿を共有していき、子供が自ら考え決定して行動するための環境を整える必要がある。 ・学期1回以上、エドワードカンファレンスを行い、子供が考え決定し主体的に遊び込むに繋がった環境構成や教師の援助について評価することができた。 ・保護者アンケートで80%以上の肯定的な評価を得ることができた。 | ・子供の姿を共通理解し、より自ら考え決定する主体的な環境の構成について必要に応じて、子供の意見を交換し、環境構成を再構成していき、子供が自ら考え決定して行動するための環境を整える必要がある。 ・学期1回以上、エドワードカンファレンスを行い、子供が考え決定し主体的に遊び込むに繋がった環境構成や教師の援助について評価することができた。 ・保護者アンケートで80%以上の肯定的な評価を得ることができた。 | ・保護者アンケートから子供が自ら考え遊び込んでいるという項目に対して高評価の者が、幼稚園での取り組みの結果、保護者にも伝わっていると思う。 今後とも友達と一緒に元気にあそぶ楽しさが感じられるような保育を進めてほしい。 |
| | 直接体験を通して子どもが心動かす保育の推進 | ・市統一の教育課程をもとに、一人一人が感じ考え学べる事ができる保育を行う。 ・園の特色でもある動物園の自然物を取り入れた保育を工夫する。 | ・学期ごとに市の教育課程に基づいて保育を振り返る。 ・年9回レポート研修会を実施し、生き物や自然に触れる直接体験の機会を作る。 また、研修内容を異年齢児に伝えたり遊びの環境を作ったりする。 ・生き物や自然を身近に感じることができるよう、季節に応じて各クラスの保育室や園庭環境を構成していく。 | ・学期に1回、教育課程を元に保育点検を行う。 ・年長児のレポート研修会を年9回実施する。好きな遊びの中や異年齢児のかかわりの中で、レポートについて異年齢児に伝えたり知ってもらいたい。 ・保護者アンケートの子供は、レポート研修会等の園庭の自然物に触れる機会を通して、以前より自然環境に興味を示すようになったと感じる」との肯定的な評価を80%以上に引き上げる。 | B | ・学期1回の教育課程の見直しを行うことができた。 ・年9回、レポート研修会を通して生き物や自然に触れる経験ができた。研修を受けた年長児は、夏以降の好きな遊びや異年齢児と学ぶことなどを楽しめる姿も自然と見られた。また、クラスでも自然と生き物や自然に興味関心が高くなるような環境構成の工夫ができてきた。今後は、より各担任が意識して自然への目を向け、子供が興味関心をもてるような工夫をしていく。 ・アンケートで80%以上の肯定的な評価を得ることができた。 | ・次年度は、教育課程を学期ごと振り返り、日々の保育実践に努めていく。 ・職員で共通理解を図り、生き物や自然を身近に感じられるような環境を工夫していく。 ・異年齢児にもレポート研修会について知らせたり、知ることでできるような環境を準備していきたい。 | ・アンケート結果からするとA評価でも良いのでは？ ・小学校以後も主体的に課題に向かう力は大切なので引き続き取り組んでほしい。 |
| 豊かな心・健やかな体の育成 | 子どもの健やかな体づくり | ・日々の遊びの中で楽しく運動遊びに取り組む。 ・園と家庭が連携を図りながら、基本的な生活習慣の確立を目指す。 | ・楽しんで体を動かすことができよう、日々の遊びの中で運動遊びや律動等に取り組む。 ・ほけんだよりやほけんの話、けんこうカレンダー等を通して、基本的な生活習慣について啓発し、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立につなげる。 | ・保護者アンケートの「幼稚園は、体力向上を目指して、楽しく運動遊びに取り組む機会をつくる」という評価は、ほけんの話やけんこうカレンダー、ほけんだよりやほけんの話、けんこうカレンダー等に活用している。肯定的な評価が80%以上に引き上げられた。 ・毎朝ほけんだよりを配布し、保護者等を行う。 ・「ほけんの話」を1回行った後、継続した指導について取り組む。 | A | ・保護者アンケートで90%以上の肯定的な評価を得ることができた。 ・ほけんの話を毎月配布することができた。 ・ほけんの話を1回1回行うことができた。教材を保護室に掲示していただくことで興味をもち、進んで取り組む様子が見られた。 | ・子供達が運動遊びを通して体向上ができるよう次年度も継続して職員間で連携して共通理解を図っていく。 ・保護者や子供からの声を拾い、笑顔に即した健康教育を今後続け、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立をめざしていく。 | ・広い園庭でのびのびと遊ばせることは大切。時間、空間、仲間がそろって遊びも充実する。今後も基本的な生活習慣はもとより運動遊びも大事にしてほしい。 |
| | 特別支援教育の推進・充実 | ・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・組織的、計画的なインクルーシブ教育の充実・充実を努める。 | ・個別の支援を必要とする幼児の情報交換を細やかにし、職員間で共通理解を図り連携して支援を行う。 ・担当者がインクルーシブ教育、職員に関する研修会に積極的に参加し、職員と共有する。 ・あすばるや療育施設、就学先小学校等との連携を図る。 | ・年2回、個別指導計画の作成を行い子供の育ちを保護者と共有する。 ・子供の姿や課題について共通理解を図るという保育会議を、第2木曜、第4木曜に実施する。 ・研修会参加後、自園の保育に活かせるよう、研修報告や保育所等訪問事業、小学校支援級の見学と引継ぎ、北中ブロックコーディネーター担当者会等で児童・幼児の情報交換をする。 | A | ・月2回担当で会議をもつて育ちや課題、必要な支援について共通理解をはかり、必要に応じてインクルーシブ教育に取り組むことができた。 ・年2回に亘る保育対象児の保護者に個別指導計画の進捗状況について共有する。また、園の状況に応じてその都度保護者と話し合う機会を設定し共通理解を図りながら保育に取り組むことができた。 | ・子供達が運動遊びを通して体向上ができるよう次年度も継続して職員間で連携して共通理解を図っていく。 ・保護者や子供からの声を拾い、笑顔に即した健康教育を今後続け、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立をめざしていく。 | ・インクルーシブ教育は就学前教育の中で公立が先行的に広げていってほしいと思うので公私ともに学び合えるといい。 |
| 豊かな心・健やかな体の育成 | 人権教育の推進・充実 | ・自尊感情や他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。 ・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。 | ・日々の保育の中で、自尊感情が高まるように、一人一人を十分に認め、自分も他者も大切にできるように子供達の気持ちや考え、行動等を尊重した保育を実践する。 ・銅鑼や他の作物の栽培を通して生命の大切さや、愛情深く関わる経験ができるよう保育を進める。 ・人権意識が高まるように保護者と職員が研修を通して学ぶ機会をもつ。 | ・保護者アンケートの「子供は自分で大切にする気持ち(自尊感情)や他者を大切にできる気持ち(思いやり)を育んでいる」という評価項目の肯定的な評価を70%以上に引き上げる。 ・自尊感情の育成について、保育の中で工夫しているこの情報交換を積極的に行う。 ・人権に対する園内研修、保護者研修を年1回以上行う。 | A | ・自尊感情や他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。 ・保護者や子供からの声を拾い、笑顔に即した健康教育を今後続け、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立をめざしていく。 | ・自尊感情や他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。 ・保護者や子供からの声を拾い、笑顔に即した健康教育を今後続け、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立をめざしていく。 | |
| | 教師の教育力の向上 | 教職員の研修の充実・人材の育成 | ・質の高い教育活動が行えるように個々の教師の力を育成する。 | ・幼児理解を基盤とした保育、行事のあり方や環境構成について話し合い今年度の教育を進めていく。 ・他園の研究会に参加し、主体的に遊び込む子供(自分で考え決定して行動する子供)を育む保育について学ぶ。 ・教師それぞれが自己目標を設定し、個々の課題に向かって研修会に参加するよう促す。 ・専門知識を深めながら質向上に努める。 | ・研究テーマに沿った日々の保育、行事のあり方、取り組み方について協議を深め共通理解の保育を進める。 ・共同研究園との研修会を実施し「自分で考え決定して行動するための環境の構成」についての学びを深める。 ・個々の職員の課題・目標に応じた幼児教育センター主催の研修会や幼児教育の専門性を高めることができる研修に参加し、得た学びを職員会議で共有する場をもつ。 | B | ・アンケートでは肯定的な評価を90%以上得ることができた。 ・共同研究園の職員と共に「自分で考え決定して行動するための環境構成」の視点から学び合うことが出来た。 ・特別支援教育の充実した園庭の研修会を3回実施し、自園の支援体制や個別の支援について深く話し合うことが出来た。 ・特別支援の研修会は市内の公私立就学前教育施設との質向上にもつながった。 | ・園での保育の語り合いや研修会については、ねらいを絞った内容にすることで、一人一人が学ぶ姿勢をもち、即日保育に活かすことが出来るようになった。 |
| 開かれた・信頼される園づくり | 安全管理 | ・様々な感染症対策に努め、安心安全な幼稚園生活が過ごせるよう努める。 ・危機管理体制の整備を進めていく。 | ・感染症等の状況把握を行い、関係機関と連携を取りながら、感染対策を行う。 ・園舎内や園庭、遊具等に危険箇所がないか点検し、危険箇所の修繕や撤去等を適宜行う。 ・避難訓練と不審者対応、交通マナー等の指導を定期的に実施する。 | ・保護者アンケートの「幼稚園は、様々な感染症対策を行い、子供が安心、安全に過ごせるよう努めている」との肯定的な評価が90%以上になる。 ・日々感染対策を行うとともに、感染症等の状況把握及び必要に応じた情報提供を行う。 ・月1回安全点検を行う。 ・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回行う。 | A | ・アンケートでは肯定的な評価を80%以上得ることができた。 ・園だけでなく地域の感染症などの状況把握に努め、教師間で情報共有し、必要に応じて保護者に情報提供を行ったりすることができた。 ・月1回の安全点検や日々の中でその都度確認できるように職員間で情報共有を行うことができた。 ・避難訓練、防災訓練を行うことで見えた課題を考える機会をもつことができた。 | ・引き続き、地域の感染症などの状況把握に努め、適切な感染対策を行う。 ・安全に生活できるように今後も安全点検及び修繕や撤去等を行う。 ・今後も避難訓練、防災訓練等の研修や成果をもとに、関係機関と連携しながら、全職員が責任をもって行動できるように努める。 | ・日頃より子供達の安全安心に繋がる対策として行っている。おかげで感染症という心配が軽減されているように思う。 ・訓練は大切なのでこれからも定期的に実施してほしい。 |
| | 学校園情報の積極的な発信 | ・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。 | ・ホームページ等を通してタイムリーに発信する。 ・クラスだよりを月1回発行したり、ホームページ、Googleによる動画配信を月3回以上アップすることで、園教育の可視化を図る。 | ・月1回保育参観等、保育の公開を行う。 ・えんどう、クラスだより等を月1回発行、ホームページ、Googleによる動画配信を月3回以上更新する。 ・保護者アンケートの幼稚園は、写真掲示やGoogleの動画配信、ホームページ等を通して、園での教育内容について視覚的に分かりやすい情報として発信している」との肯定的な評価を80%以上に引き上げる。 | A | ・ホームページ及びGoogleによる動画配信を月3回以上アップすることができた。特に動画配信では、タイムリーに子供の様子を伝えることができた。 ・またクラスだよりを配信することで、保護者が閲覧しやすい、可視化につながった。 ・保護者アンケートで80%以上の肯定的な評価を得ることができた。 | ・今後クラスだよりやGoogleを通じて、タイムリーに子供の様子を伝える、園との信頼関係の構築に努め、理解、協力が得られるよう取り組んでいく。 | ・先生達の作業負担もあるが、保護者が求める事も時代とともに変化しているので、動画配信などは喜んでおられると思う。 |
| 業務改善 | 子育て支援 | ・預かり保育の充実を図り、子育て支援に努める。 | ・「預かり保育」利用者が多い、より安全管理に努め、子供が安心して過ごせるような環境や活動内容を工夫する。 ・子供の様子や健康状態等職員間の連携を図るとともに、保護者との連携も密にし、子育て支援の充実・充実を努める。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を実施し、支援員と連携を図り未就園児と保護者の様子について職員間で情報共有する。 | ・保護者アンケートの「幼稚園は、預かり保育の充実を図り、保護者が安心して子育てができるよう努めている」との肯定的な評価を80%以上に引き上げる。 ・園生活での子供の様子や、保護者から得た情報などを担任と預かり担当で共有する場をもつ。 ・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を年9回実施する。 | A | ・預かり保育の利用が増え、保護者のニーズに応えるよう努めたことで、90%以上の肯定的な評価を得ることができた。子育て支援の充実につながっていると考え、年9回の実施が出来るようになった。伊丹幼稚園は毎回の(さ)の参加者があつた。未就園児について知りたくて未就園児保護者の要望に対応できる。引き続き「みんなのひろば」の職員との連携を図りながら、子供の様子を把握していく。 | ・預かり保育の利用者が増えることで子供の安全確保、保護者対応、事務作業の増加などという経験も少ないので、そうした面からも貴重な時間になっている。 ・就学前の親子はなかなか相談する機会が無いと思うので親子の様子を知りたいと思う。 | |
| | 業務改善 | ・園務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。 | ・常に見直しを持ち、月ごとの園務日程は、全職員で点検し、職員会議や職員作業等を行う。 ・計画に無理がある場合には、適時修正を行い業務遂行に支障が無いようにする。 ・業務担当者が予め資料を配付したり意見を集約することで会議時間の短縮や精選を行う。 ・個別に見直しを立て優先順位を考慮し、計画的に業務を行い超過勤務削減についての意識を高める。 | ・環境整備安全点検は日頃より気をつけていることを職員で行う効率よく業務を遂行できるようにする。 ・事前に会議内容と時間を共通理解することで会議時間の短縮を行う。 ・前月の記録簿を元に今月の目標を定め、月1回の定時退勤日およびマイ定時退勤日を守る。 | A | ・普段から職員体制の中に子供の様子や意見を伝える風土が根付いているので、あえて職員会議の時間を設けなくても日々の共通理解が出来ている。 ・全職員で協議が必要な内容については事前に提案や資料配付を行い、限られた時間内で出来るように出来た。 ・休みの日に休める体制、超過勤務の削減によりはたかた行っているという評価ができる。ただし、個人によっては依然持ち帰りがあることで課題である。 | ・今年度実施した中に課題に繋がった。次年度も引き続き実践していく。 ・仕事量の偏りに関しては、他の職員がカバー出来る事を割り振りしたり厚めに取り組む意識をもつ。 ・持ち帰りの仕事に関しては内容を再検討し、就業時間内によりやる方法を探る必要がある。 | ・日々働き方改革と書かれている。幼稚園の先生はほとんどが子供の安全を第一に考えているので、環境構成に時間をかけておられる、事務仕事も多くなるように、来年度も引き続き取り組んでほしい。 |

・子供達一人ひとりの様子をよく観察し、職員一同共通理解の元、保育にあつていく。
・研究テーマにもある、自分で考え決定し遊び込む子供の育成に取り組み成果が出ている。

・引き続き子供がいきいきと遊び込む事が出来るよう取り組んでほしい。
・生活習慣面など保護者の意識と協力が必要な事もたくさんあるので、引き続き保護者支援や保護者へのアピールもしていけたら良いと思う。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った